

【解答例】

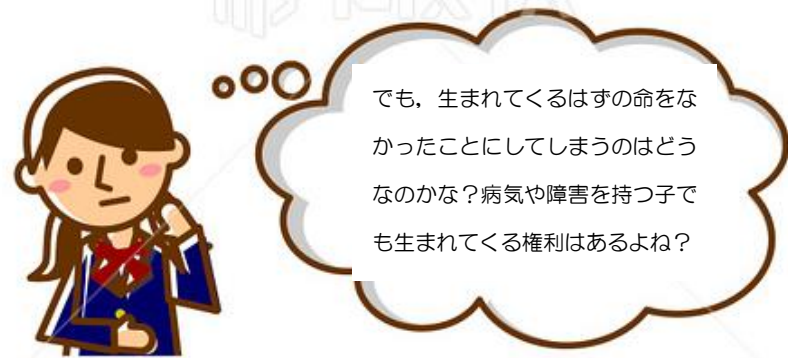
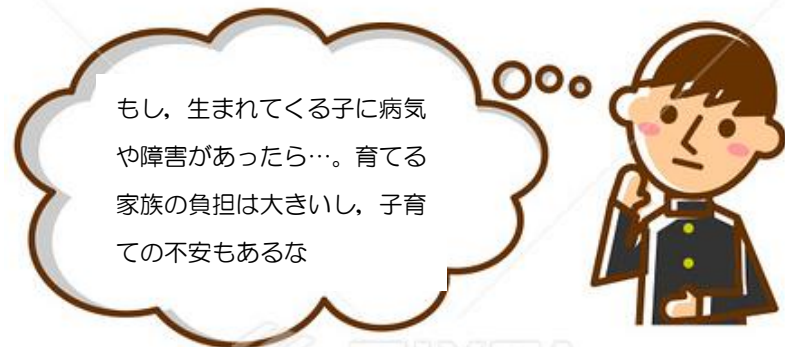
出生前診断の是非

母体内の胎児の健康状態を把握する検査を、出生前診断という。とくに妊娠前半期に胎児の遺伝的な疾患などを診断する場合、中絶が可能な期間に検査結果が出る。そのため、妊娠の継続を中断することも起こりうる。

出生前診断について適正な判断をすることは難しく、妊婦や家族に与えるストレスも大きい。十分な説明やカウンセリングの充実などが重要になる。

YES NO・・・出生前診断について 教科書 24 ページや資料を参考にしながら、出生前診断の是非について自分の意見を書こう！

☆考える視点



(自分の意見)

・私は出生前診断を行うことに賛成である。なぜなら、生まれてくる子に病気や障害を持っていたら両親や周りの家族に大きな負担が生じるからだ。その子自身もハンディを抱えながら自立した生活ができるか分からない。出生前診断を行い、そうした不安を取り除くことができるのであれば行うべきではないだろうか。

(自分とは異なる立場で意見を書いてみよう)

・出生前診断には反対である。もし診断で異常が見つかったら、中絶するか、そのまま産むかという命の選択を家族に強いることになってしまう。家族の意見が一致しなければ大きなトラブルの原因にもなりかねず、両親や家族に大きな心理的プレッシャーを与えてしまう。例えどちらを選択しても、将来その選択を引きずる可能性もあり、私は出生前診断はするべきでないと考える。

生命誕生への介入

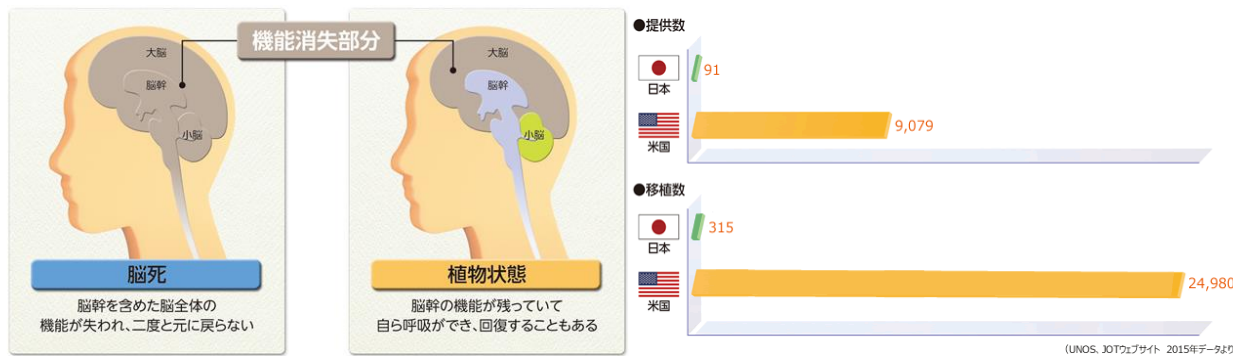
【成果】

・(1 人工授精) や (2 体外受精) によって、不妊になやむ夫婦にも妊娠の可能性が高まった。
・(3 受精卵診断) や (4 出生前診断) によって生まれる前に病気などを発見できるようになった。

【課題】

・病気や障害のある子どもは生まれてこなくて良いのかという問題⇒差別につながる恐れがある
・体外受精や (5 代理) 出産は、親子関係を複雑にし、家族の在り方を変えることもある。

【解答例】



変わる死の定義

➤ 1997年：(1 **臓器移植法**) が成立
 ⇒ 脳死体からの臓器移植が可能となる。

死の定義の変化

Before 心臓死=人の死 ⇒ After 脳死=人の死
 ※脳死による臓器提供を行う場合に限る

➤ 2009年：臓器移植法の改正

☆改正のポイント！

① 本人による (2 **臓器提供拒否**) の意思表示がなければ、(3 **家族**) の承諾で臓器提供が可能になった。

② (4 **15**) 未満の臓器提供も可能になった。

※本人の意思表示が不明な場合、家族の承諾で臓器移植が可能となる。

☆考えてみよう

2009年の改正によってどんなメリットが生まれただろうか？また、新たに浮上してきた課題としてはどんなことがあるのだろうか？

メリット	課題
<p>・家族の承諾で臓器提供が可能になるため、臓器提供を望んでいるより多くの人々の命を助けることにつながる。</p>	<p>・家族の承諾が必要である以上、臓器提供をするかどうかという選択を迫られる場面が増えるということである。たとえば家族であっても人の命の選択をしてもよいのだろうか？</p>

☆あなたならどうする？ もしも家族が脳死状態になってしまったら…？

あなたに 10 歳の子供がいたとする。その子がある日突然交通事故にあい、脳死状態になってしまった。以前は、15 歳未満の患者からの臓器提供はできなかったが、法律の改正により親族の同意があれば臓器提供が可能になった。あなたは臓器提供についてどう判断するか？

(自分の意見)

私は臓器提供をしたい。なぜなら、臓器提供をすることで助かる命があれば助けたいと思うし、その人の中で自分のこどもの一部が生き続けることができるからだ。脳死状態でいつまでも命を保つことだけに縛られるのでは、その子のためにも、家族のためにもならないと思う。

(自分とは異なる立場で意見を書いてみよう)

私は臓器提供をしたくはない。確かに臓器提供で助かる命があることは知っているが、脳死とはいえ、まだ生きている我が子の命を自分の選択で絶ちたくない。自分はこの子のそばにいただけでもいいのでこのまま見守りたい。

【補足事項】

問1. ES細胞とiPS細胞の違いを説明しよう

- ES細胞…受精卵から成長する段階の胚を培養して作られる細胞。移植した際に拒絶反応がでる可能性があり、受精卵を使うことで命の芽を摘んでしまうという倫理的な問題も生じる。
- iPS細胞…自分の皮膚や血液など採取しやすい体細胞を使ってつくる。ES細胞の課題を回避できると期待されるが、安全性や倫理面での課題は残る。

問2. 高度な医療が進む一方で生じる課題はどんなものがあるのだろうか？

- 家族の介護、特に老老介護が深刻な課題
- 医療費の高額化
- 在宅介護の際の家族の負担の増大
- 看護・介護専門員の不足

問3. 以下の文中の空欄に適語を埋めなさい

- 生活や人生の質のことを(①クオリティ・オブ・ライフ)という。
- 医療する側が患者に治療方法などを説明し、患者が理解・承諾したうえで治療を実践することを(②インフォームド・コンセント)という。
- 死期が迫った時に、延命措置などを拒み、人間の尊厳を保つために自らの意思で死を選択することを(③尊厳死)という。また、耐えがたい肉体的苦痛に苦しむ人が、その痛みから逃れるため、自らの意思で安らかな死を選択することを(④安楽死)という。

【+α】 できる人はチャレンジしてみよう!

◎小論文を書こう

①テーマ

国の借金は膨らみ、年金や医療などに使われる社会保障費は増大しています。これに対応するために、「消費税の更なる増税をすべき」という意見がありますが、この意見に対してのあなたの立場（賛成または反対）を明確にしなが、理由を含め、600字程度で記述しなさい。

②評価のポイント

(1)内容面

- 主題（テーマ）について立場が明確に示され、主張がはっきりしているか。
- 理由や根拠が独りよがりではなく、客観的で適切なものであるか。
- 具体的な事実やデータなどが示され、説得力がある文章になっているか。

(2)表現面

- 言葉遣い、語彙、文法、主述の関係などが適切か。
- 一文が長すぎたり、冗長な表現になっていないか。

◎添削を希望する人はメールで受け付けます！

chireki.okazaki0514@gmail.com

岡崎のアドレスです。メールで文章を直接送ってもいいですし、Wordなどで添付ファイルにしても構いません。添削して返信します。